

笑顔・元気・愛情いっぱい！高島第一小学校
すべての人に居場所と出番があり、ともに学び続ける学校を目指して

昭和46年4月に開校した本校は、保護者や地域の方々に愛され、支えられながら、多くの子供たちを健やかに育ててきた学校である。ここまで築き上げてきた伝統を守り、さらに発展させることは、今の私たちの使命である。その使命を果たすべく、保護者・地域の方々・教職員が思いを一つにし、ともに協働していくために経営方針を以下に示します。

1 教育目標（目指す児童像）

- 明るく元気な子ども
- よく考え根気強くやりとげる子ども
- 仲よく助け合う子ども
- 素直で礼儀正しい子ども

子どもたちが生きる未来は、少子高齢化による生産年齢人口の減少、グローバル化やイノベーションによる急激な社会構造の変化、地球温暖化、価値観の多様化など、様々な問題の解決に挑戦していかなければならない時代です。そして、すでに、そのダイナミックな変化は始まっています。

その未来を明るいものとするために何よりも大切なものは、「子どもたち」です。どのような困難に対しても、主体的に解決に取り組み、仲間とともに協働し、乗り越えるたくましい子どもたちが、「ともに生きる社会」「持続可能な社会」をつくる担い手となります。

そこで、高島第一小学校では、以下のような子どもの育成を目指します。

- 明るく元気な子ども 心身ともに健康で、前向きに生きる子どもの育成
- よく考え根気強くやりとげる子ども 主体的に考え、諦めずに努力する子どもの育成
- 仲よく助け合う子ども 相手を尊重し、人のために働ける子どもの育成
- 素直で礼儀正しい子ども 言葉と態度で感謝を伝えることができる子どもの育成

2 目指す学校像

笑顔・元気・愛情いっぱい！高島第一小学校
すべての人に居場所と出番があり、ともに学び続ける学校を目指して

- 笑顔・元気・愛情いっぱいの子供たち 「学校が好き、友達が好き、自分が好き」
- 笑顔・元気・愛情いっぱいの保護者・地域の方々 「通わせてよかった」「わがまちの誇り」
- 笑顔・元気・愛情いっぱいの教職員 「子供の笑顔のためにともに働く喜び」

学校は学ぶところです。教科はもちろんのこと、人との関わり方、社会規範など、社会で生きるために必要なことを学ぶところです。まさに「生き方」を学ぶところです。そして、その学びは、大人になっても続きます。

そのような「生き方」を学ぶことのできる学校を目指す上で、その土台となるものは、子ども同士、子どもと教師、学校と保護者・地域の方々のよりよい人間関係です。できないことや失敗を助けてくれる友達がいる。困ったことがあると親身に相談にのってくれる先生がいる。学校の課題解決に協力してくれる保護者・地域の方々がいる。そのような学校は、すべての人に居場所と出番があり、ともに学び続けることのできる学校です。

そのような学校は、「ともに生きる」喜びに満ちあふれた笑顔・元気・愛情いっぱいの学校です。

3 教育目標の達成に向けた具体的な手だて

(1) 明るく元気な子ども ⇒心身ともに健康で、前向きに生きる子どもの育成

① 子ども一人一人を大切にする教育の推進

子ども一人一人をかけがえのない存在として尊重し、大切にする意識を全教員で共有します。子どもへの指導においては、道徳教育など関連させ、多様な特性を誰もがもっていることや人権尊重の精神を知らせ、お互いを大切にできる態度を育成します。

② 失敗させる、子どもを信じる

子どもたちには、失敗から学ばせます。失敗させることを恐れる大人は、ルールを敷こうとします。そのルールから外れる子どもと衝突します。

私たちが育てたい子どもは、自分でルールを敷ける子どもです。子どもは、私たち大人よりも遙かに自由で、創造的な力をもっています。子どもを信じて、任せるところは任せます。子どもの敷いていくルールに寄り添いながら、支援していきます。

(2) よく考え根気強くやりとげる子ども ⇒主体的に考え、諦めずに努力する子どもの育成

① 主体性を育む教育活動の充実

- ・学級活動等の話し合い活動を通して、自分たちの生活を自分たちでよりよくする経験を積ませます。
- ・子ども会が中心となり、「高一のきまり」等の見直しを図る「ルールメイキング」へ取り組ませます。

② 確かな学力、生きる力を育む授業の創造

- ・読み解く力を育む授業の実践

板橋区の教育の重点である「読み解く力」の育成を図るため、校内研究や日頃の授業において、「読み解く力」の育成に焦点化した指導の工夫を取り入れた授業改善に努めます。

- ・一人一台タブレットPCやICT機器の活用の推進

一人一台タブレットPCやICT機器を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ります。

③ 取り残さないための丁寧な支援…学年、専科、支援員、保護者と連携して

- ・分からない、できないところをそのままにしない

学習面でも生活面でも、みんなと一緒に進めることが難しい子どもがいます。ちょっと一声かければできる子、個別に少しの時間をとって説明が必要な子、かなり個別対応が必要な子など様々な対応が求められますが、それを担任、学年や専科の先生、支援員、保護者と連携して、丁寧に対応をしていきます。

- ・学習準備を整える

学習の準備は、授業を行うためにとても大切です。削ってある鉛筆、消しゴムが用意されているかなどの基本的な準備をおろそかにしません。家庭にも協力を求めています。

(3) 仲よく助け合う子ども ⇒相手を尊重し、人のために働ける子どもの育成

① かかわり合いを大切にした教育活動の充実

・特別活動、特に学級活動の計画的な実施

教育活動の基本集団である「学級」をよりよくするために、子ども自らが課題を見付け、みんなで解決方法を話し合い、決めたことを実践する「学級活動」の指導を充実させます。お互いを理解し、違いを認め合う活動を通して、人間関係形成力を高め、「学級」における自分の居場所を見つけ、「学級」への貢献により自己有用感をもつことができます。

・異年令集団活動の充実

1年生から6年生までが、高一小の一員として、それぞれの役割を理解し、かかわり合う中で、かかわり合う楽しさ、役に立つ喜びを味わい、高一小への愛着と誇りを育みます。

全校子どもが「憧れの6年生」を目指し、6年間の成長を実感できるように活動を工夫します。

・授業における「学び合う時間」

授業においても、子どもたちがかかわり合いながら学ぶ時間を意図的につくります。少しの時間でも、隣の子や班の子と相談したり、一緒に解決したりすることで、ともに学ぶ意識が育ちます。

・係活動、当番活動の充実…一人一人に出番を

学級、学校の中で、自分の役割「出番」が明確であれば、子どもたちはそれをやり遂げようと努力します。そして、そのことを教師や友達から認められることで、自己有用感が育ち、「人のために働く喜び」を知る子どもが育ちます。また、それが、その子にとっての「居場所」になります。一人一人の「出番」をつくります。

(4) 素直で礼儀正しい子ども ⇒言葉と態度で感謝を伝えることができる子どもの育成

① 言葉は心をつくる…言語環境を整える

・あいさつは「人間関係づくり」の基本

朝、教室に入る時の「おはよう」、授業が始まる時の「よろしくお願いします」、授業が終わる時の「ありがとうございました」、廊下ですれ違う時の「こんにちは」、給食時の「いただきます」「ごちそうさまでした」、帰る時の「さようなら」は、ともに生活する仲間やお世話になっている方への「感謝」「他者尊重」「敬意」を「かたち」にしたものです。気持ちよい挨拶を大いに褒めてください。

・人権を損なう言葉は許さない…今の人権感覚をともに学ぶ

人権上許されない言葉が、実際には世の中にはあふれています。テレビやネットには、そのような言葉が当たり前のように流れています。

でも、それは相手を傷つける凶器であるという感覚をもって、流さずに指導していきます。家庭内でも、言語環境を整えることにご協力ください。

② 規範意識の向上

・ルールは思いやり

ルールは、誰もが安心・安全に生活できるためにあり、そのルールを守ることは「相手への思いやり」であることを理解させた上で、「高一のきまり」を指導し、徹底を図ります。

特に、「時間を守る」「あいさつをする」「話を黙って聞く」は、全校で徹底して取り組み、全校朝会で、常に意識させてください。

・いじめを許さない学級・学校づくり

いじめとは、「対象の子どもが心身の苦痛を感じているもの」すべてであり、人権侵害であるという共通認識をもち、学校全体で強い危機意識をもって取り組みます。まず、学級活動など子供同士のよりよいかかわり

合いを充実させ、仲のよい学級、正義の通る学級をつくることが、いじめ未然防止の最善策です。また、日頃から、教師が一人一人の子どもの様子に目を配り、小さな変化を見逃さず、すぐに学年主任・管理職への報告をお願いします。いじめが発見された時は、迅速にいじめ対策委員会を開催し、事実・対応策の情報共有を行い、学校全体でいじめの解消に取り組みます。

4 その他の大切にすること

① 学校、家庭、地域で共通の指導

- ・褒めることと叱ること

指導の基本は、その子のよさやよい行いを認めていく「褒める」が大切です。しかし、絶対によくないことやしてはいけないことをした場合は、しっかり「叱る」ことが必要です。ただし、大声で怒鳴ったりという意味ではありません。どうして叱られたのかちゃんと分かるようにしてください。子どもは納得すれば、指導が入ります。

- ・ルールの共通理解と指導の徹底

通学路を守らずに登校している児童がいたときに、どのように対応しますか。学校と家庭と地域で違う指導をすれば、子どもは大人の足下を見るようになります。みんなや自分の安全のために通学路を守るという本来教えたことを理解させるためにも、共通の指導が大切です。

② 保護者・地域の方々との信頼関係の構築

- ・子どもは大人の背中を見て育つ

子どもは、いつも大人の背中を見て学びます。教師も保護者も、子どもたちの手本であるという意識を忘れてはいけません。礼儀、言葉遣い、規範意識など、社会で生きるために必要な力を後ろ姿で教えましょう。

- ・保護者会の充実

保護者会は、保護者同士が知り合うチャンスです。保護者同士の仲が良いと、子供のトラブルがあっても、穏やかな解決が図りやすくなります。必ず、保護者同士でコミュニケーションが図れる保護者会を行います。

年4回の保護者会を充実させていきます。ぜひ、ご出席ください。

- ・地域に開かれた学校運営

高島第一小学校コミュニティスクール委員会（iCS）と連携を図り、保護者、地域の方々の協力をえながら教育活動を推進し、子ども、保護者、地域の方々がかわり合いながら、地域の活力を向上させます。

- ・ホームページ等を活用した教育活動の様子の発信

高島第一小学校ホームページに日々の教育活動の様子を掲載し、保護者、地域の方々に教育活動を伝えていきます。また、学校だより、学年だより等の配布物についても掲載していきます。

5 高島第一中学校学びのエリアの教育指針

○エリア校 高島第一中学校 高島第一中学校 新河岸小学校

○目指す子ども像

「あきらめない子ども～自分のよさや可能性を信じ、自ら考えて取り組み、継続できる子ども～」

- ・発達段階を踏まえた9年間の継続的な指導により、授業規律の徹底を図り、望ましい学習習慣を身に付け、落ち着いて学習に取り組むことができるようにして基礎的な学力の定着を図る。
- ・読み解く力の育成を柱とした連続性のある学びにより、学んだ内容をアウトプットする力を付けることで主体的に学習に取り組む態度を育成し、課題に対して粘り強く取り組み自らの学びを調整できるようにする。
- ・あいさつを通して、お互いを認め合い、高め合う学びのエリアの学校風土を構築し、子どもたちが安心・安全に過ごすことのできる学校をつくる。